

来賓挨拶

経済産業省製造産業局金属課金属技術室
室長 木原栄治殿

只今、ご紹介いただきました経済産業省金属技術室の木原でございます。本日は、このような席にお招きいただきまして誠にありがとうございます。

通常総会では予定されておりました議案が滞りなく承認されましたこと、お慶び申し上げます。本日付で会長が交代されますが、鈴木前会長にはこれまでの御貢献に対して御礼申し上げます。本日より伊藤会長の下で日本鉄リサイクル工業会の活動がスタートいたしますが、益々の発展を祈念したいと思います。

令和の時代が始まり約1ヶ月半が経ちましたが、その前の平成の時代はバブル崩壊とその後の長期にわたるデフレに苦しんだ時代でした。しかし、安倍政権発足以降は、名目GDPが61兆円増加しており、10%以上の経済成長を実現しております。令和の時代はこの勢いを維持しながら、日本が世界の経済を牽引して行ける時代となるように経済産業省一丸となって取り組んで参りたいと思います。

足元の経済動向を見てみますと、輸出と生産の一部に弱いところが見られますが、自動車、産業機械等の需要は堅調に推移しております。しかしながら、米中の貿易摩擦が激化しておりまして、今後の動向については注意深く見ていく必要があると認識しております。鉄スクラップの状況を見てみますと、2018年は生産については前年並みに推移したと聞いております。2019年につきましては前年より若干、下回っていると認識しております。鉄スクラップ価格については、2018年は10年ぶりの高水準で推移したと認識しております。2019年の価格については、高水準であった2018年と比較しますと若干、下回っていると認識しております。

海外、特に中国との関係では、中国による雑品スクラップの輸入停止に伴って日本国内では金属を国内でリサイクルしていくことの重要性が益々、高まっております。皆様に、日本国内のリサイクルシステムを担っていただいておりますことを大変感謝しております。

今年は様々な行事がありますが、G20会議が開催されております。その中ではエネルギーと環境が重要なテーマとして採り上げられております。それに関連して官邸では、昨年の夏から温暖化のための長期戦略懇談会が開催されておりましたが、4月2日に有識者の提言ということで取りまとめが行われました。それを踏まえて6月11日に政府としての長期戦略をまとめさせていただきました。温暖化対策を推進するうえでは、国民の各界、各層の取組みが重要になってまいります。皆様方、鉄鋼関連のご協力も重

要になってまいります。皆様の協力をいただきながら環境対策を進めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。

鉄鋼の過剰生産能力は世界的な課題になっております。通商の分野では、一部保護主義的な動きがありますが、多国間で問題を解決していくことが重要です。鉄鋼につきましては、「鉄鋼グローバルフォーラム」という多国間の枠組みがございます。しかも昨年12月からは日本が議長国を務めております。そうしたことを活用しながら過剰生産能力の問題解決に取り組んでまいりたいと思っております。今月末には大阪でG20サミットが開催されます。そのサミットに合わせるようなタイミングでグローバルフォーラムの報告書がまとめられるように過剰生産能力の削減、歪曲的な政府支援措置の除去といったことに引き続き、交渉を進めてまいりたいと思っております。

日米関係でも重要な課題がございます。昨年9月に日米首脳会談が開催されましたが、その中で232条に基づく鉄鋼、アルミに対する追加関税については早期の解決に努めることが確認されております。海外との関係では様々な課題がありますが、一つ一つ丁寧に交渉を進めて課題解決に取り組んでまいりたいと考えております。

最後になりますが、経済産業省といたしましてはいろいろな施策を通じて金属業界の発展に尽くしてまいりたいと思っております。日本鉄リサイクル工業会そして会員の皆様の今後の発展、ご活躍を祈念いたしまして私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。